

高槻市水道事業基本計画 実施計画

(令和 3 年度～令和 7 年度)

令和 3 年 3 月策定

令和 7 年 9 月改定

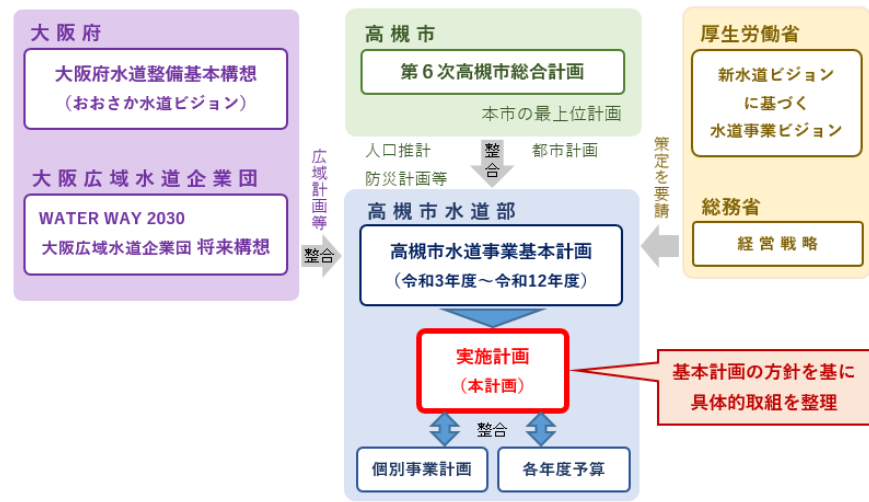
高槻市水道部

実施計画の概要

1 実施計画の位置づけ

高槻市水道部では、令和 3(2021)年度から令和 12(2030)年度までの 10 年間を計画期間とした、「高槻市水道事業基本計画」を策定しました。

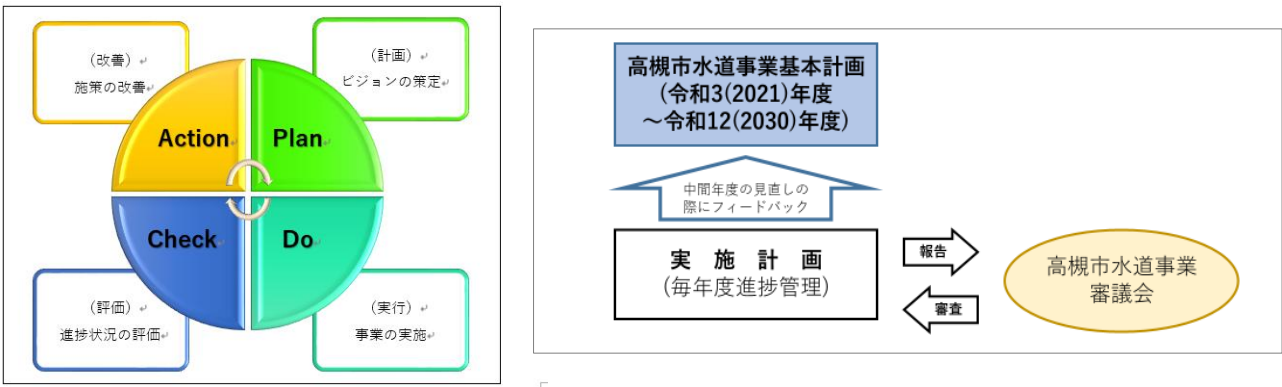
『高槻市水道事業基本計画 実施計画』（以下、本計画という。）は、基本計画を実施するにあたり、方針に基づいた具体的な取組をまとめたものであり、計画期間を 10 年間とし、個別具体的な事業について、各年度の予算等に反映していきます。



2 推進体制

本計画では、可能な限り管理指標を設定することで客観的な評価を行うこととし、進行管理にあたっては、毎年度の決算と事業進捗を基に実施計画に反映し、取組項目の進行管理を行っていくとともに、主要事業の進捗や社会環境の変化を踏まえるため、必要に応じてPDCAサイクルに基づき、毎年、事業や指標の見直しを行っていきます。

また、進行状況については、学識経験者や公募市民で組織される高槻市水道事業審議会においても毎年度報告を行い、外部からの客観的な審査を受けます。



計画期間中の中間年度をめぐに本計画の達成状況の総括と基本計画の見直しを行い、将来像の実現に向かって事業を実施していきます。

	前 期					後 期				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
基本計画					中間見直し					最終評価 次期計画策定
フィードバック										
実施計画	進捗管理	進捗管理	進捗管理	進捗管理	進捗管理 中間見直し	進捗管理	進捗管理	進捗管理	進捗管理	進捗管理

実施計画（個票）の見方

観 点		将 来 像					
方 針			【観点】 【将来像】 【方針】 【施策】 基本計画から抜粋したものを示します。				
施 策							
目標・効果			将来像や方針を踏まえ、施策の中で達成を目指す目標やそれらが実現した際の効果を示します。				
取組内容・方向性			目標を達成するための取組内容や、方向性を示します。				
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		進 捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		計画	前期もしくは後期の各5年間の計画及び実績を示します。				
		実績					
		計画	計画期間中の主な事業、指標の進捗を示します。 上段に計画、下段に実績を示し、年度毎の進捗を”見える化”します。 「計画」欄には事業内容を記載していますが、基本計画にK P Iとして示している項目については、数値目標として指標を記載しています。 なお、状況の変化に柔軟に対応するため、「計画」欄の修正や、項目自体の追加・取り下げを行うこともあります。				
		実績					
		計画					
		実績					
		計画					
		実績					
	○年度末時点での評価			取組結果を毎年度評価し、目標達成につなげます。			
関連指標			K P I等の管理指標のほか、取組に関連する指標を示します。				
関連計画等			国、大阪府や市長部局の計画等、関連する計画などを示します。				
備考			事業の設定背景や指標の補足等を示します。				

施策及び主な事業・指標一覧

将来像		施 策	主 な 事 業 ・ 指 標		
安全・安心な水道水の供給 【安全】	1-1	水道GLPの認定維持	安全	1101	内部監査の実施
				1102	水道GLP事務局による審査の受審
				1103	【K P I】水質検査精度
	1-2	水安全計画の推進		1201	レビューの実施（定期・臨時）
				1202	【K P I】水質基準不適合率
	1-3	水道水を安全にご使用いただくための 広報・啓発・支援		1301	給水装置に関する情報提供・啓発・支援（水質編）
				1302	指定給水装置工事事業者の資質向上支援
				1303	小規模貯水槽の所有者や管理者への情報提供
				1304	関連部局との情報交換
	2-1	浄水処理施設等の最適な更新方法の 検討・実施		2101	大冠浄水場浄水処理工程の段階的更新事業
災害に強く、しなやかな水道の整備 【強靱】			強靱	2102	堰田浄水場取水施設の改修事業
	2-2	安全な水質を維持するための 施設管理の取組		2201	受水池・配水池等の定期点検清掃
				2202	設備点検の実施
				2203	管路のダウンサイジング
	1-1	水道施設の災害対策		1101	【K P I】大冠浄水場停電対策事業
				1102	大冠浄水場浸水対策事業
				1103	大冠浄水場場内の配水管耐震化事業
	1-2	水道管路の強靱化		1201	【K P I】基幹管路の耐震適合率
				1202	【K P I】拠点病院及び救護所等に至る重要給水施設管路の耐震適合率
				1203	日吉台送水管路の二重化
いつまでも信頼される水道 【持続】	1-3	水道部庁舎の耐震化	持続	1301	水道部庁舎の耐震改修
				1302	資産の有効活用の検討
	2-1	危機管理体制の強化		2101	災害分野の諸計画の策定・検証・見直し
				2102	防災訓練の実施
	2-2	効果的な災害広報・市民との協働の推進		2201	災害に関する広報（平常時）
				2202	災害発生時の新たな情報伝達手法の検討
				2203	住民組織による応急給水活動の促進
	1-1	組織体制の強化		1101	水道技術に関する資格取得の推進
				1102	研修受講の推進
	1-2	広域連携の検討		1201	水平連携に向けた取組
				1202	広域連携に関する調査・研究
	2-1	広報・広聴・啓発の推進		2101	広報・広聴・啓発の取組
				2102	水道週間行事の実施
	2-2	給水装置に係る情報提供の推進と 指定給水装置工事事業者制度の改善		2201	給水装置に関する情報提供・啓発・支援（管理編）
				2202	指定給水装置工事事業者情報の提供
	2-3	多様なお客さまサービスの調査・研究		2301	【K P I】お客さま満足度
				2302	多様なお支払い方法の検討
	2-4	地域社会貢献への取組		2401	水道に関する学習機会の提供
				2402	省エネルギーに向けた取組推進
				2403	障がい者優先調達、高齢者雇用企業・組織の活用
	3-1	高有収率の維持と継続的改善		3101	【K P I】有収率
				3102	漏水防止計画に基づく漏水調査
				3103	基幹管路の漏水調査・監視の方法の検討
	3-2	業務の更なる効率化の推進		3201	業務の更なる効率化に向けた調査・研究
				3202	工事発注平準化の取組推進
				3203	大冠浄水場更新事業契約手法の検討
				3204	大規模管工事の円滑な発注方式と監理手法の検討
	3-3	公有財産の活用・処分の推進		3301	遊休資産の活用・処分の推進
				3302	水道部財産管理検討会議の開催
	3-4	自己水による給水量の一定確保		3401	【K P I】自己水系総給水量
				3402	取水動向を踏まえた地下水の状況把握
				3403	大冠系統拡大計画に基づく系統切替
				3404	更なる自己水活用方法の検討
	4-1	施設の適切な更新		4101	適切な施設配置の検討
				4102	大冠浄水場の段階的更新
				4103	受水池・配水池の改修
				4104	老朽設備の更新
	4-2	老朽管の更新		4201	【K P I】铸铁管路の更新率
				4202	非铸铁管路の漏水分析
				4203	老朽管の更新事業
	4-3	情報資産の管理・活用と 水道施設の適切な維持管理		4301	企業会計システム
				4302	料金システム
				4303	管路マッピングシステム
				4304	施設台帳システム
	5-1	持続可能な水道のための財源の確保		5101	適切な料金水準・体系についての検討
				5102	経営面に関する広報
				5103	大口需要者のニーズ把握と地下水等専用水道使用者への対策検討
				5104	【K P I】経常収支比率
	5-2	企業債等の活用に関する調査・取組		5201	企業債の活用の検討
				5202	国庫補助金の活用検討

【K P I】：Key Performance Indicator（重要業績評価指標）の略称

観 点		安全	将 来 像		安全・安心な水道水の供給			
方 針		安全1 安全な水質を管理、維持していくための方針						
施 策		安全1-1 水道GLPの認定維持						
目標・効果		水道GLPの認定を維持することで、国による水質基準の見直しや水質検査項目の追加などがあった場合にも、正確な手順で精度の高い検査が可能になります。また、水の安全性を確認するための水質検査が迅速にできるようになります。						
取組内容・方向性		自己検査体制を維持し、原水から給水に至る水道システム全体の水質管理を強化します。水道GLP（優良試験所規範）の認定を維持し、水道水質検査結果の精度と信頼性を確保します。そのため、年1回の定期内部監査を実施するとともに、外部監査として、水道GLP事務局のサーベイランス及び更新審査を受審します。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		進捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		内部監査 の実施	計画	実施	実施	実施	実施	実施
			実績	内部監査を実施し、 必要な対応を行った	改定したシステム 文書に基づき、内部 監査を実施した	内部監査を実施し、 必要な対応を行った	監査方法を改善し、 内部監査を実施した。	
		水道GLP 事務局による 審査の受審	計画	サーベイランスを 受審	—	更新審査を受審	—	サーベイランスを 受審
			実績	認定維持が承認された	—	審査を受審し、 認定が更新された	—	
		【KPI】 水質検査 精度	計画	第1群	第1群	第1群	第1群	第1群
			実績	第1群	第1群	第1群	第1群	
令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項)		
関連指標		【KPI】水質検査精度：高槻市水道事業基本計画P76参照 第1群であることを維持することが目標						
関連計画等		水質検査計画（高槻市水道部）						
備考								

観 点			安全	将 来 像		安全・安心な水道水の供給		
方 針			安全1 安全な水質を管理、維持していくための方針					
施 策			安全1-2 水安全計画の推進					
目標・効果			水道水質基準不適合率 0 % を維持します。安心して利用できる水道水を、より安全かつ安定的に供給できるようになります。					
取組内容・方向性			水源から蛇口までのリスクを評価し、包括的な水質管理を行うために策定した『水安全計画』を運用することで、安全な水道水の供給をより確実なものにします。水安全計画の推進にあたっては、必要に応じて計画の妥当性の確認と実施状況の検証（レビュー）を行い、改定していきます。					
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど			進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	安全1201	レビューの実施 (定期・臨時)	計画	実施	実施	実施	実施	実施
			実績	大冠浄水場において、原水に添加する次亜塩素酸ナトリウムの量についてマニュアルと実態に乖離があったため計画を改定	施設事故・停電対策マニュアルを水安全計画の文書として位置づけたほか、危害頻度やリスク評価の見直し等を行った	浄水処理困難物質の記載内容及び運転管理マニュアルの見直し等を行った	水質事故発生時の報告先や様式の見直し、水質に関する留意事項を見直した	
	安全1202	【KPI】	計画	0%	0%	0%	0%	0%
		水質基準不適合率	実績	0%	0%	0%	0%	
令和 6 年度末時点での評価			☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）			(特記事項)		
関連指標			【KPI】水質基準不適合率：高槻市水道事業基本計画P76参照 0%を維持することが目標					
関連計画等			水安全計画（高槻市水道部）					
備考								

観 点		安全	将 来 像		安全・安心な水道水の供給					
方 針		安全1 安全な水質を管理、維持していくための方針								
施 策		安全1-3 水道水を安全にご使用いただくための広報・啓発・支援								
目標・効果		給水装置について適正な管理を行っていただくため、必要な情報提供・啓発・支援を行うことにより、お客さまが、安全な水道水を安心して使用していただける環境を維持していきます。								
取組内容・方向性		(1)給水装置に関する情報提供 主にお客さまの所有物である給水装置に関して、安全な水道水をご使用いただくための情報を提供します。 (2)クロスコネクション（誤接続）の防止に関する取組 市民向けのリスク軽減のための啓発や、指定給水装置工事事業者向けに資質向上研修会を開催するなどして誤接続防止の周知徹底を図ります。 (3)小規模貯水槽の管理支援 小規模な受水槽（容量が10㎡以下のもの）について、設置者に管理支援を行うとともに、保健所等の関連部局との情報交換を行います。								
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど				進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		安全 1301	給水装置に関する情報提供・啓発・支援（水質編）	計画	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援
			実績	給水装置工事施行指針の改訂及びHP公開	パンフレット「たかづきの水道」に鉛製給水管についての飲用時の注意喚起を掲載	建物の新築・改築にあわせた給水装置のリニューアル推奨（利用者向け）についてHP掲載	水道メーター取替え後の水道使用前の注意点についてHP掲載			
		安全 1302	指定給水装置工事事業者の資質向上支援	計画	業者向け研修会開催	業者への情報提供・啓発	業者への情報提供・啓発	業者向け研修会開催	業者への情報提供・啓発	
			実績	第5回府統一型ブロック別研修会の実施	工事着手及び供用開始時の注意点についてHP掲載	建物の新築・改築にあわせた給水装置のリニューアル推奨（事業者向け）についてHP掲載	・研修会等の支援は令和7年度に延期 ・水道メーターの適正な管理についてHP掲載			
		安全 1303	小規模貯水槽の所有者や管理者への情報提供	計画	情報提供・啓発・点検支援	情報提供・啓発・点検支援	情報提供・啓発・点検支援	情報提供・啓発・点検支援	情報提供・啓発・点検支援	
			実績	小規模貯水槽調査業務の実施	小規模貯水槽調査業務の実施	貯水槽水道の維持管理の啓発についてHP掲載	貯水槽水道の維持管理の啓発についてHPリニューアル			
		安全 1304	関連部局との情報交換	計画	情報交換	情報交換	情報交換	情報交換	情報交換	
				実績	市保健所と小規模貯水槽一覧を共有するなど、必要に応じて情報交換を実施	市保健所と小規模貯水槽一覧を共有するなど、定期的に情報交換を実施	市保健所と小規模貯水槽一覧を共有するなど、定期的に情報交換を実施	市保健所と小規模貯水槽一覧を共有するなど、定期的に情報交換を実施		
		令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☒ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項） 安全 1302：実態把握の観点から、指定給水装置工事事業者制度の更新制導入から5年経過する令和7年度に延期されたため		
関連指標										
関連計画等										
備考										

観 点		安全	将 来 像		安全・安心な水道水の供給			
方 針		安全2 施設・設備（安全）に関する方針						
施 策		安全2-1 浄水処理施設等の最適な更新方法の検討・実施						
目標・効果		令和12年度末までに大冠浄水場段階的更新の主要事業や、榎田浄水場の取水施設の改修事業を完了させ、将来にわたる安全で安心な水道水の供給維持につなげます。						
取組内容・方向性		(1)大冠浄水場の最適な更新方法の検討・実施 大冠浄水場の限られた敷地の中で、浄水処理を継続しながら、更新途中に生じる課題を抽出しリスクを回避しながら、段階的に更新を進めていきます。 (2)榎田・川久保浄水場の適正な維持管理 榎田浄水場及び川久保浄水場は、山間部の重要な施設であることから、適正な維持管理を継続していきます。表流水を水源とする取水施設においては、高濁度・濁水に備えて安定化を進めていきます。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど			進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	安全2101	大冠浄水場 浄水処理工 程の段階的 更新事業	計画	実証実験	実証実験	事業方式の検討 自家発電設備整備 場内配管等整備	契約手法の検討 自家発電設備整備 場内配管等整備	更新事業再開に向け 検討会開催
			実績	実証実験を開始	実証実験を完了	事業方式の検討 自家発電設備の新設 に着手 場内配管等の一部整備	自家発電設備の設置 を完了	
	安全2102	榎田浄水場 取水施設の 改修事業	計画	基本設計	前ろ過設備の実証 実験	前ろ過設備の 実証実験 詳細設計	築造工事	築造工事
			実績	基本設計	前ろ過設備の実証 実験を開始	実証実験を完了 詳細設計に着手	取水設備、前ろ過 設備の工事に着手	
令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☒ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項) 安全2101：場内配管等の整備については、PFASに関する動向を注視するため事業を見合せ		
関連指標								
関連計画等		第9次水道施設等整備事業計画（高槻市水道部）						
備考								

観 点		安全	将 来 像		安全・安心な水道水の供給				
方 針		安全2 施設・設備（安全）に関する方針							
施 策		安全2-2 安全な水質を維持するための施設管理の取組							
目標・効果		水源から蛇口までの水道施設全体を計画的に維持管理できるようになり、安全な水質の維持が可能となることで「蛇口から安心して飲める水道」を守り続けます。							
取組内容・方向性		計画的に施設の維持管理や更新を実施してきます。特に、老朽化した施設や管路の更新については、将来の水需要も考慮に入れて統廃合や規模の縮小を検討するなど、環境に配慮しつつ効率的に実施します。 (1)施設・設備の計画的な更新 水道施設を適切に管理し、老朽化した水道設備を計画的に更新することにより安全な水を安定的に供給します。 (2)管路のダウンサイジング 将来の水需要に見合った積極的な管路のダウンサイジングを行い、配水池から蛇口までの到達時間の短縮を図ることで、水質維持に努めます。							
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		安全2201		進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		受水池・配水池等の定期点検清掃	計画	各池の定期点検・清掃実施	各池の定期点検・清掃実施	各池の定期点検・清掃実施	各池の定期点検・清掃実施	各池の定期点検・清掃実施	
			実績	摂津峡配水池と川久保浄水場の点検清掃を実施	榎田浄水場と萩谷低区配水池及び萩谷中継ポンプ場の点検清掃を実施	阿武野配水池(2号池)と日吉台配水池(3号池)の点検清掃を実施	大冠配水池(3号池)と萩谷低区配水池配水池(2号池)の点検清掃を実施		
		設備点検の実施	計画	実施	実施	実施	実施	実施	
			実績	年次点検計画をもとに設備点検を実施	年次点検計画をもとに設備点検を実施	年次点検計画をもとに設備点検を実施	年次点検計画をもとに設備点検を実施		
		安全2203	管路のダウンサイジング	計画	工事区間の管路ダウンサイジング 実施	工事区間の管路ダウンサイジング 実施	工事区間の管路ダウンサイジング 実施	工事区間の管路ダウンサイジング 実施	工事区間の管路ダウンサイジング 実施
実績	(塚原四丁目ほか) ダウンサイジング 延長 2,539 m ダウンサイジング 率 35.5%			(登町ほか) ダウンサイジング 延長 3,164 m ダウンサイジング 率 34.9%	(西冠二丁目ほか) ダウンサイジング 延長 2,927 m ダウンサイジング 率 37.1%	(安岡寺町三丁目ほか) ダウンサイジング 延長 4,706 m ダウンサイジング 率 56.5%			
令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）					(特記事項)		
関連指標		設備点検実施率(PI：B117)：機械・電気・計装機器の合計数に対する点検機器数の割合を示す指標 令和元年度の実績値は91.38% 90%以上を維持することが目標							
関連計画等		水安全計画（高槻市水道部）、水道施設の点検を含む維持・修繕の実施に関するガイドライン（厚生労働省）							
備考		【安全2201】主な送水施設・配水施設のうち配水池等の池状構造物は、全部で37。近年は、耐震補強などに合わせて改修を実施。今後は、毎年定期清掃・点検を実施。 ※ダウンサイジング 率：布設した管路のうち、既設より口径を小さくした延長の割合							

観 点		強 靱	将 来 像		災害に強く、しなやかな水道の整備				
方 針		強靱1 施設・設備（強靱）に関する方針							
施 策		強靱1-1 水道施設の災害対策							
目標・効果		大冠浄水場の長期停電対策と、浸水対策を完了させます。 長期停電の発生に備えた自家発電設備の整備や浸水対策並びに場内の導・配水管を耐震化することで、災害後の早期復旧が可能となり、大規模災害時の他の施設の被害状況と復旧段階に応じた応急給水活動等を遅滞なく実施することができます。							
取組内容・方向性		(1)長期停電対策 非常用発電機の更新に合わせて、長時間運転可能な発電機の選定、燃料備蓄量の増量、災害時にも調達しやすい軽油に変更するなど、長期停電を見据えた対策を実施します。 (2)浸水対策 大冠浄水場の更新に合わせて、高槻市水害・土砂災害ハザードマップに基づき淀川の外水氾濫を想定した、建物のかさ上げや防水扉、止水堰の設置などの浸水対策を実施します。							
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		強靱1101	【KPI】	進 捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			計画	詳細設計	関連土木工事との調整	自家発電機棟築造・自家発電設備設置	自家発電機棟築造・自家発電設備設置	—	
		大冠浄水場停電対策事業	実績	詳細設計	関連土木工事との調整	自家発電設備の新設に着手	自家発電設備の設置を完了		
			強靱1102	大冠浄水場浸水対策事業	計画	詳細設計	関連土木工事との調整	自家発電機棟築造に合わせた浸水対策	自家発電機棟築造に合わせた浸水対策
		実績		詳細設計	関連土木工事との調整	自家発電機棟の築造に着手	自家発電機棟の築造により浸水対策を実施		
		強靱1103	大冠浄水場場内の配水管耐震化事業	計画	設計準備	実施設計	工事施工	工事施工	—
実績	R4年度実施設計発注に向けた準備			R5年度工事発注に向けた実施設計	取水井流量計室の築造を実施	PFASの国の規制値等の検討動向を踏まえ耐震化事業の延期			
令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☒ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）					（特記事項） 強靱1103：有機フッ素化合物における国の規制値等の検討動向を踏まえ耐震化事業の延期		
関連指標		【KPI】燃料備蓄日数：高槻市水道事業基本計画P77参照 令和12年度に1.1日になっていることが目標（PI：B610）							
関連計画等		高槻市地域防災計画、高槻市水道部災害応急対策実施要領、第9次水道施設等整備事業計画（高槻市水道部）							
備考		【強靱1101】自家発電設備及び燃料タンクの整備により、停電対策を実施し、燃料備蓄日数0.2日（令和元年度末）を令和12年度末までに1.1日に向上させます。 【強靱1102】自家発電棟築造に合わせて、浸水対策を実施します。淀川外水氾濫時の4mに対応します。							

観 点		強 靱	将 来 像		災害に強く、しなやかな水道の整備				
方 針		強靱1 施設・設備（強靱）に関する方針							
施 策		強靱1-2 水道管路の強靱化							
目標・効果		基幹管路の耐震適合率について、令和12年度末に70%以上を達成させます。拠点病院及び救護所等に至る重要給水施設管路の耐震適合率について、令和12年度末に100%を達成させます。これにより、大規模災害時の断水被害を最小限に抑制でき、給水の早期復旧が可能となると共に、災害時に医療救護活動を担っている拠点病院及び救護所等の重要給水施設への給水継続が可能となります。							
取組内容・方向性		(1)基幹管路の耐震化 送水管及び配水本管などの基幹管路の耐震化を推進します。 (2)重要給水施設管路の耐震化 高槻市地域防災計画において災害時の医療救護活動を担う拠点病院や救護所等の重要給水施設へ至る管路の耐震化を推進します。また、配水系統間の相互融通に係る調査・研究や、管路附属物を含めた管路システム全体の強靱化手法の調査・研究を行い、大規模地震時における給水の安定性の向上を図ります。							
主 な 事 業、 指 標 の 進 捗 な ど		進 捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		強靱1201	【KPI】	計画	適合率53%	適合率55%	適合率56%	適合率57%	適合率59%
			基幹管路の耐震適合率	実績	R3年度末 適合率53.5%	R4年度末 適合率54.2%	R5年度末 適合率55.7%	R6年度末 適合率57.6%	
		強靱1202	【KPI】	計画	適合率68%	適合率72%	適合率76%	適合率79%	適合率83%
			拠点病院及び救護所等に至る重要給水施設管路の耐震適合率	実績	R3年度末 適合率71.6%	R4年度末 適合率74.8%	R5年度末 適合率78.2%	R6年度末 適合率83.3%	
		強靱1203	日吉台送水管路の二重化	計画	実施設計	実施設計	工事施工	工事施工	—
				実績	対象路線の埋設物調査と測量委託の実施	対象路線の埋設物調査と設計	日吉台配水池周辺及び送水管布設ルートについて再検討	日吉台配水池周辺及び送水管布設ルートについて再検討	
令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☒ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項） 強靱1203：ルートを再検討。第10次整備計画期間内に改めて事業を施行予定。			
関連指標		【KPI】基幹管路の耐震適合率：高槻市水道事業基本計画P77参照 令和12年度に70%にすることが目標(PI：B606-2) 【KPI】拠点病院及び救護所等に至る重要給水施設管路の耐震適合率： 高槻市水道事業基本計画P77参照 令和12年度に100%にすることが目標							
関連計画等		高槻市地域防災計画、第2期高槻市まち・ひと・しごと創生総合戦略、第9次水道施設等整備事業計画（高槻市水道部）							
備考									

観 点			強靱	将 来 像		災害に強く、しなやかな水道の整備				
方 針			強靱1 施設・設備（強靱）に関する方針							
施 策			強靱1-3 水道部庁舎の耐震化							
目標・効果			水道部庁舎について、耐震化を図ることで、災害時でも円滑に業務を継続できるようにします。							
取組内容・方向性			水道部庁舎は、災害時のライフラインとしての重要な防災拠点であり、地震などの災害に対する高い安全性を確保できるよう、長寿命化を図りながら、耐震改修を行います。							
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど			進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
			強靱1301	水道部庁舎 の耐震改修	計画	実施設計	実施設計	耐震改修	耐震改修 Is値0.75を達成	—
					実績	R5年2月に完了予定	R5年2月に完了	R5年度末 進捗率85%	進捗率100% Is値0.75を達成	
			強靱1302	資産の有効 活用の検討	計画	長寿命化について 実施設計に反映	長寿命化について 実施設計に反映	施工	施工	—
					実績	屋上防水、給排水管 及び空調の更新を 実施設計に反映	屋上防水、給排水管 及び空調の更新を 実施設計に反映	屋上防水、給排水管 及び空調の更新を 順次実施	屋上防水、給排水管 及び空調の更新完了	
			令和6年度末時 点での評価			☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項）
関連指標			Is値：建物の耐震性能を表すための指標 H25年度耐震診断時点の水道部庁舎の値は0.28（資料編20参照）							
関連計画等			公共建築物の耐震化基本計画（高槻市）、官庁施設の総合耐震・耐津波計画基準（国土交通省）							
備考										

観 点			強 靱	将 来 像		災害に強く、しなやかな水道の整備			
方 針			強靱2 災害対応・危機管理に関する方針						
施 策			強靱2-1 危機管理体制の強化						
目標・効果			内部体制の強化と職員一人ひとりの危機管理能力を高めるとともに、受援計画による外部組織の受け入れを含め、災害に強い体制を構築し、災害の際に円滑かつ迅速な応急活動が可能となります。						
取組内容・方向性			大規模災害に備え、外部組織を含めた危機管理体制の強化等、災害に強い体制を構築します。 (1)応急給水・復旧体制の強化 市長部局との連携を強化するとともに、災害規模に応じた優先的応急対策事項の検討、資機材の備蓄・調達や指揮命令系統及び判断権限の明確化などの内部体制の整備を強化します。また、これまでの被災経験・応援活動で得た教訓を生かし各種マニュアルの検証・改定を継続するとともに、実践的な訓練を行います。 (2)事業継続計画（BCP）の策定 水道部の事業継続計画（BCP）を策定します。また、感染症等の新たなリスク要因への対応策について検討を進めます。 (3)受援体制の整備 災害時の外部組織の受入れ体制を整備します。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど			進 捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			強靱2101	計画	水道部BCPと 受援計画の策定	災害時応急対策実 施要領の見直し	災害時行動マニ ュアルの見直し	訓練による検証等 を踏まえた各種計 画の見直し	訓練による検証等 を踏まえた各種計 画の見直し
			強靱2102	実績	水道部BCPと 受援計画を策定	災害時応急対策実施 要領の改正	災害時応急対策実施 要領の改正	・高槻市受援計画の 改定（想定受援人数 の見直し） ・高槻市災害復旧協 力会と協定内容の見 直しに向け協議	
			強靱2103	計画	実施	実施	実施	実施	実施
			強靱2104	実績	訓練に替えて部内独 自研修を実施	高槻市全体訓練に加 え、水道部独自訓練 を実地	危機管理室と共同で 市内自主防災組織と の訓練を実施	・危機管理室と共同 で市内自主防災組織 との訓練を実施 ・大阪府及び府内水 道事業者で災害情報 共有システムの試験 訓練を実施	
令和 6 年度末時 点での評価			☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）			(特記事項)			
関連指標			災害対策訓練回数（PI：B210）：年間の災害対策訓練の実施回数 令和元年度は 1 回						
関連計画等			高槻市水道部災害応急対策実施要領（災害応急対策計画・災害時行動マニュアル）、高槻市地域防災計画						
備考									

観 点		強 靱	将 来 像		災害に強く、しなやかな水道の整備				
方 針		強靱2 災害対応・危機管理に関する方針							
施 策		強靱2-2 効果的な災害広報・市民との協働の推進							
目 標 ・ 効 果		災害に関する広報について、平常時から有効な情報発信を行うことにより、お客さまに日ごろから断水への対策を行っていただくとともに、災害時に必要な情報を得られるような環境を整備することにより、災害発生時に効果的・効率的な情報伝達が可能となります。また、市民との協働を推進することで、効果的な応急給水活動が行えるようになります。							
取組内容・方向性		(1)平常時からの有効な情報伝達及び情報コンテンツの充実 平常時から様々な広報手段により、応急給水方法などの積極的な情報発信を行います。 (2)多様な情報ニーズに対応する情報伝達体制の整備と信頼性の高い情報の発信 市民がより自分の居住区域に密着した正確な情報を素早く入手できるよう、既存の情報伝達方法に加え、新たな情報伝達体制の整備を行います。 (3)市民との協働体制の確立 地域の状況を踏まえながら市民との連携を一層強化することにより、災害時に住民自らの手により応急給水活動を行える体制づくりを推進し、自助、共助、公助が総合的に機能する協働体制の確立に取り組みます。							
主 要 事 業、 指 標 の 進 捗 な ど		進 捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		強靱2201	災害に関する広報（平常時）	計 画	広報誌・市HPでの 防災に関する広報動画の作成	広報誌・市HPでの 広報	広報誌・市HPでの 広報	広報誌・市HPでの 広報	広報誌・市HPでの 広報
				実 績	災害への備えや災害時の行動についてまとめた動画「たかつき『みずから』防災」を製作、市公式YouTubeにて配信	・広報誌及び市広報番組にて防災啓発及び配信動画をPR ・市大防災訓練にてPRブース設置、給水車展示、応急給水体験	市主催イベントへのブース出展により、防災啓発のパネル展示やチラシの配布、応急給水体験等を実施	市主催イベント及び市内商業施設へのブース出展により防災啓発のパネル展示やチラシの配布、応急給水体験等を実施	
		強靱2202	災害発生時の新たな情報伝達手法の検討	計 画	検 討 ・ 実 施	—	—	—	—
				実 績	災害時の問い合わせの総合窓口となる「災害時コールセンター」を設置	—	—	—	
		強靱2203	住民組織による応急給水活動の促進	計 画	住民組織と協議	住民組織と協議	住民組織と協議	住民組織と協議	住民組織と協議
実 績	1 連合自治会と「応急給水活動の実施に関する覚書」締結			2連合自治会(4単組自治会含む)と「応急給水活動の実施に関する覚書」締結	応急給水栓の利用方法の説明や、給水袋等へ給水をしやすくするためのブロックを配置	応急給水栓の利用方法にかかる説明会の実施および連絡担当者の確認			
令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項)			
関連指標									
関連計画等		高槻市地域防災計画、高槻市水道部災害応急対策実施要領							
備考									

観 点			持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道		
方 針			持続1 組織体制と広域連携に関する方針					
施 策			持続1-1 組織体制の強化					
目標・効果			計画的な研修の実施、資格取得の管理や部門横断的な組織体制を整備し、職員一人ひとりのスキルアップと技術継承に取り組みます。					
取組内容・方向性			水道事業の中核となる業務を担う人材の育成と確保など、組織体制強化を推進します。 (1)人材育成・確保 計画的な研修の実施や外部組織との情報共有を推進し、職員のスキルアップを図り、人材育成と技術継承に向けた取組を検討します。 (2)組織体制の整備 部門横断的な組織体制の整備を推進します。					
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど			進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			計画	水道技術に関する資格取得を推進	水道技術に関する資格取得を推進	水道技術に関する資格取得を推進	水道技術に関する資格取得を推進	水道技術に関する資格取得を推進
			実績	資格取得に係る技能講習等を8名が受講	資格取得に係る技能講習等を5名が受講	資格取得に係る技能講習等を2名が受講	資格取得に係る技能講習等を9名が受講	
			計画	外部研修・内部研修受講を推進	外部研修・内部研修受講を推進	外部研修・内部研修受講を推進	外部研修・内部研修受講を推進	外部研修・内部研修受講を推進
			実績	外部研修を532時間受講したほか、11月～1月の間に内部研修を309時間実施	外部研修を565時間受講したほか、5月～1月の間に内部研修を536時間実施	外部研修を562時間受講したほか、5月～1月の間に内部研修を578時間実施	外部研修を447時間受講したほか、5月～1月の間に内部研修を577時間実施	
令和6年度末時点での評価			☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）			（特記事項）		
関連指標			水道技術に関する資格取得度（PI：C201）：水道部職員一人当たりが取得している水道技術に関する資格数 外部研修時間（PI：C202）：水道部職員一人当たりが一年間に受けた外部研修の時間数 内部研修時間（PI：C203）：水道部職員一人当たりが一年間に受けた内部研修の時間数					
関連計画等			「高槻市みらいのための経営革新」に向けた改革方針					
備考								

観 点			持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道		
方 針			持続1 組織体制と広域連携に関する方針					
施 策			持続1-2 広域連携の検討					
目標・効果			高槻市の実情に則した広域連携の形態を選択し、経営の効率化を図ります。					
取組内容・方向性			水道の広域連携には、様々な形態があることを念頭に、市民にとってのメリットを最優先に、事務や施設の共同化などの水平連携を中心とした広域化手法の検討を行います。水道の基盤強化に向け、北大阪区域内における水道事業者間を中心に、連携強化の方法や取組を検討します。 また、大阪府が設置している「府域一水道に向けた水道のあり方協議会」に参画しながら、課題を整理・検討するなど、広域連携についての調査研究を行います。					
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど			進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	指標1201	水平連携に向けた取組	計画	近隣事業体との協議	近隣事業体との協議	近隣事業体との協議	近隣事業体との協議	近隣事業体との協議
			実績	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	
	指標1202	広域連携に関する調査・研究	計画	他事業体・団体の事例研究	他事業体・団体の事例研究	他事業体・団体の事例研究	他事業体・団体の事例研究	他事業体・団体の事例研究
			実績	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	「あり方協議会」等を通じ、府・近隣事業体と情報交換	
	令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項)	
関連指標								
関連計画等			大阪府水道整備基本構想（おおさか水道ビジョン）、大阪府広域的水道整備計画、大阪府水道広域化推進プラン（府域一水道に向けた水道のあり方に関する報告書）					
備考			あり方協議会（「府域一水道に向けた水道のあり方協議会」の略）とは、持続可能な大阪府域水道事業の構築に向け、大阪府と府域全水道事業者が参画し、将来的な府域水道のあるべき姿を検討する組織					

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続2 多様なお客さまサービスに関する方針						
施 策		持続2-1 広報・広聴・啓発の推進						
目標・効果		水道についてのお客さまの理解と関心を深めるため、様々な情報媒体を活用して積極的な情報発信を行うとともに、広聴活動を通してお客さまの知りたい情報（ニーズ）を把握し、それらを充足する情報の提供を継続して実施します。						
取組内容・方向性		水道水の安全性や経営状況等の水道事業に関する情報発信を行うとともに、お客さまのニーズ把握にも努め、双方向の情報伝達を意識した広報・広聴事業を実施します。市広報誌等の紙媒体以外での情報発信に関し、今後も適切なホームページの運用管理を行うとともに、動画での情報発信やSNS等の効果的な広報・広聴手段について随時検討を行います。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		進捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		計画		実施	実施	実施	実施	実施
		実績		市HPリニューアルに合わせたHP掲載情報の内容見直し	・ 出前講座及び特別講座の実施、市主催イベント(大防災訓練)への参加 ・ 若い世代をターゲットにしたWEBアンケートの試行	・ 広報誌に6頁に亘る水道特集記事を掲載 ・ 出前講座及び特別講座の実施、市主催イベント(みどりのカーニバル・産業フェスタ)への参加 ・ 市民アンケート調査の実施	・ 市主催イベント(みどりのカーニバル・産業フェスタ)や商業施設でブースイベントを出展し、WEBアンケートの実施(1,552名参加)	
		計画		実施	実施	実施	実施	実施
		実績		HPや市庁舎展示ブースにて料金・浄水工程・管路耐震工事の取組等の様々な情報を発信	防災啓発をテーマにHPや市営バス広告、市庁舎展示ブース、市窓口デジタルサイネージ等において情報を発信	水道水でエコをテーマにHPやSNS、市営バス広告、図書館展示ブース、市窓口デジタルサイネージ等において情報を発信	水備蓄をテーマにHPやSNS、市営バス広告、図書館展示ブース、市窓口デジタルサイネージ等において情報を発信	
		令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項）
関連指標								
関係計画等		水道部広報広聴基本方針、高槻市市民意識調査、水道に関する市民アンケート調査						
備考								

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続2 多様なお客さまサービスに関する方針						
施 策		持続2-2 給水装置に係る情報提供の推進と指定給水装置工事事業者制度の改善						
目標・効果		給水装置の維持管理に関する情報や、給水装置工事を発注する際に判断材料となる情報提供の推進に取り組むことで、引き続きお客さまが安心して水道をご使用いただける環境を維持します。						
取組内容・方向性		給水装置に関する情報について、お客さまに対して入手しやすい方法、理解しやすい形式、自由に利用できるかたちでの提供を推進します。【水道法第24条の2、水道法施行規則第17条の2第1項第5号】（情報提供義務） (1)給水装置に関する情報提供 お客さまの所有物である給水装置の維持管理の重要性を改めて啓発するとともに、老朽化した給水装置を使用し続けた場合の不具合事象などのお客さまにとって有用となる情報を積極的に分かりやすく提供していきます。 (2)指定給水装置工事事業者制度 指定給水装置工事事業者の更新制の導入により、水道事業者が定期的に業者情報の収集機会が得られることとなったことを活用し、お客さまが工事を依頼する際の業者選定時に有用となる情報を収集していくとともに、お客さまへ分かりやすく提供していきます。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど	持続2201	給水装置に関する情報提供・啓発・支援（管理編）	進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			計画	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援	お客さまへの情報提供・啓発・支援
	持続2202	指定給水装置工事事業者情報の提供	実績	給水装置工事施行指針の改訂及びHP公開	パンフレット「たかづきの水道」に管理及び修繕区分を掲載	建物の新築・改築にあわせた給水装置のリニューアル推奨（利用者向け）についてHP掲載	水道メーターの適正な管理についてHP掲載	
			計画	情報の収集と提供	情報の収集と提供	情報の収集と提供	情報の収集と提供	情報の収集と提供
		実績	漏水修繕工事対応業者一覧の提供	漏水修繕工事対応業者一覧及び指定給水装置工事事業者一覧をHP随時更新	漏水修繕工事対応業者一覧及び指定給水装置工事事業者一覧をHP随時更新	漏水修繕工事対応業者一覧及び指定給水装置工事事業者一覧をHP随時更新		
令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項)		
関連指標								
関連計画等		水道部広報広聴基本方針、高槻営業担当の心得、年間広報計画（高槻市水道部）						
備考								

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続2 多様なお客さまサービスに関する方針						
施 策		持続2-3 多様なお客さまサービスの調査・研究						
目標・効果		ライフスタイルの多様化等に対応するためお客様のニーズを把握し、それらを元に新たなサービスを提供していくことにより、お客さま満足度92%以上を維持し、お客さまとの信頼関係を、より強固にすることを目指します。						
取組内容・方向性		お客さまの水道サービスに対するニーズを的確に捉えるため、アンケート調査等を行うとともに、ライフスタイルの多様化等に対応できるよう、多様な支払い方法等について、費用対効果を十分に勘案のうえ調査研究を進めます。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど	持続2301	【K P I】	進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			計画	92%以上	92%以上	92%以上	92%以上	92%以上
		お客さま満足度	実績	91%	93.2%	88.7% (94.7%:無回答除く)	89.2% (91.4%:無回答除く)	
	持続2302	多様なお支払い方法の検討	計画	調査研究	調査研究	調査研究	調査研究	スマートフォン決済の導入
			実績	スマートフォン決済の導入検討	スマートフォン決済の導入検討	スマートフォン決済の導入検討	スマートフォン決済の導入準備を実施	
令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☒ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項） 持続2301：水質に関する設問に対し満足度が低かったことから、お客さま満足度の低下となった。		
関連指標		【KPI】お客さま満足度：高槻市水道事業基本計画P77参照 令和12年度に92%が目標						
関連計画等								
備考								

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続2 多様なお客さまサービスに関する方針						
施 策		持続2-4 地域社会貢献への取組						
目標・効果		水道に関する学習機会の提供、省エネルギーの推進、障がい者や高齢者の雇用・就業機会の創出など、SDGsの各目標に向けて取り組むことで、公営企業として社会貢献に寄与します。						
取組内容・方向性		SDGsの各目標を踏まえ、地域社会に貢献します。 (1)『4. 質の高い教育をみんなに』では、小学生を対象とした社会見学の受け入れなど、水道に関連する学習機会の提供を推進します。 (2)『7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに』『12. つくる責任 つかう責任』『13. 気候変動に具体的な対策を』では、水道施設のダウンサイジング・省電力化を推進するとともに、市長部局で策定している「たかつきエコオフィスプラン」に基づき、省エネルギーに向けた取組などを推進します。 (3)『8. 働きがいも経済成長も』では、公営企業として、障がい者や高齢者の雇用・就業機会の創出に向けた取組を推進します。						
		進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど	持続2401	水道に関する学習機会の提供	計画	実施	実施	実施	実施	
		実績	小学校社会見学受入1校（※新型コロナウイルス感染拡大、7月中旬から大冠浄水場工事のため）	小学校社会見学受入21校、一般16組	小学校社会見学受入なし（大冠更新工事のため） 職業体験受入れ1件	職業体験受入れ2人、中学校での出前講座1校 副読本に二次元バーコードを掲載し、タブレット学習でも利用できるよう見直し		
	持続2402	省エネルギーに向けた取組推進	計画	配水量1m3 当たり二酸化炭素排出量削減	配水量1m3 当たり二酸化炭素排出量削減	配水量1m3 当たり二酸化炭素排出量削減	配水量1m3 当たり二酸化炭素排出量削減	配水量1m3 当たり二酸化炭素排出量削減
		実績	3g・CO2/m3削減 R2年度 78g・CO2/m3 R3年度 75g・CO2/m3	30g・CO2/m3増加 R3年度 75g・CO2/m3 R4年度 105g・CO2/m3	6g・CO2/m3増加 R4年度 105g・CO2/m3 R5年度 111g・CO2/m3	14g・CO2/m3増加 R5年度 111g・CO2/m3 R6年度 125g・CO2/m3		
	持続2403	障がい者優先調達、高齢者雇用企業・組織の活用	計画	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施
		実績	普通財産7か所の除草・水道部庁舎の剪定業務をシルバー人材センターへ委託	普通財産7か所の除草・水道部庁舎の剪定業務をシルバー人材センターへ委託	普通財産7か所の除草・水道部庁舎の剪定業務をシルバー人材センターへ委託	普通財産9か所の除草・水道部庁舎の剪定業務をシルバー人材センターへ委託		
令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☒ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）			（特記事項） 持続2402：電気使用量は前年度よりも削減できたが、電気事業者の排出係数が大きくなったことで排出量が増加した。			
関連指標		配水量1m3 当たり二酸化炭素（CO2）排出量（PI：B303）： 年間配水量に対する二酸化炭素総排出量の割合。（令和元年度実績：104g・CO2/m³）						
関連計画等		高槻市における障がい者就労施設等からの物品及び役務の調達の推進を図るための方針、環境基本計画（高槻市）、高槻市みどりの基本計画、たかつき環境行動計画、たかつきエコオフィスプラン						
備考								

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続3 資源・資産の有効活用に関する方針						
施 策		持続3-1 高有収率の維持と継続的改善						
目標・効果		有収率95%以上を維持し、経営の安定化と施設の維持管理水準の向上につなげます。						
取組内容・方向性		漏水は、貴重な資源である水や経費を無駄にするだけでなく、道路陥没などの二次被害も引き起こす可能性があることから、漏水調査計画を策定し、計画的に漏水防止対策を推進します。また、漏水調査手法の調査・研究を行い、継続的改善に努めます。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど	持続3101	【K P I】	計画	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上
		有収率	実績	95.76%	95.10%	93.75%	93.38%	
	持続3102	漏水防止計画に基づく漏水調査	計画	漏水調査	漏水調査	漏水調査	漏水調査	漏水調査
			実績	各戸音聴調査： 24,644戸 弁栓音聴調査： 206km	各戸音聴調査： 16,262戸 弁栓音聴調査： 179km 管路施設点検： 276基	各戸音聴調査： 19,753戸 弁栓音聴調査： 168km 管路施設点検： 322基	各戸音聴調査： 16,994戸 弁栓音聴調査： 184km 管路施設点検： 14基	
	持続3103	基幹管路の漏水調査・監視の方法の検討	計画	検討 (配水本管)	漏水調査試行 (配水本管)	分析・検討 (配水本管、送水管)	分析・検討 (配水本管、送水管)	基幹管路漏水調査
			実績	調査方法及び 路線決定	漏水調査の 試行実施	最新技術を用いた 調査方法の情報収集	人工衛生とAIを活用 した漏水調査の調査 研究	
	令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☒ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項) 持続3101：R7年度は主要な配水系統全てを対象に漏水調査を実施予定	
	関連指標		【KPI】有収率（PI：B112）：高槻市水道事業基本計画P77参照 95%以上を維持することが目標					
関連計画等		漏水防止計画（高槻市水道部）						
備考		【持続3102】第4次漏水防止計画：全管路約1,000kmのうち、漏水の可能性が比較的高い管路約380kmを抽出し、効率的な調査サイクル（2～5年で1巡）を決定します。						

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続3 資源・資産の有効活用に関する方針						
施 策		持続3-2 業務の更なる効率化の推進						
目 標 ・ 効 果		職員体制に見合った業務の効率化を検討し、効果的な水道事業の運営を行います。 人的資源・物的資源を最大限有効に活用し、水道事業の持続につながります。						
取組内容・方向性		業務の更なる効率化の推進にあたっては、外部委託化や電算化といった従来の効率化に加え、より効果的な手法を検討します。 (1)システム更新時の検討 各種システムが更新時期を迎える際には、広域化を見据え、他事業体との連携・標準化を視野に入れた対応を検討します。 (2)業務の更なる効率化の検討 抜本的な業務見直しや省人化、効率化について、民間資源の活用や、他市事例等、積極的な調査研究を進めていきます。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		進 捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		持続3201 業務の更なる効率化に向けた調査・研究	計画	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究
			実績	・web会議システムの活用 ・給水検査業務の外部化を検討	・給水検査業務の外部化を開始 ・ボイスワープ機能の導入（災害時の電話対応一本化） ・給水設備操作の動画マニュアル作成	市民アンケート調査をこれまでの紙ベースだけでなく簡易電子申込システムと併用で実施したことによる回答率上昇や若い世代の回答率向上、集計作業時間短縮	大冠浄水場の運転監視業務の拡大 料金システムの更新にかかる、ベンダーとの協議、近隣市視察	
		持続3202 工事発注平準化の取組推進	計画	5か年工事発注計画策定	平準化率管理	平準化率管理	平準化率管理	平準化率管理
			実績	工事発注モデル作成とそれに基づく、R4年度発注計画の立案	平準化率 0.80	平準化率 0.75	平準化率 0.71	
		持続3203 大冠浄水場更新事業契約手法の検討	計画	—	—	事業方式の検討	契約手法の検討	更新事業再開に向け検討会開催
			実績	—	—	事業方式の検討	PFASに関する動向を注視するため事業を見合せ	
		持続3204 大規模管工事の円滑な発注方式と監理手法の検討	計画	発注方式と契約実態の調査研究	発注方式と契約実態の調査研究	発注方式と監理手法の分析	発注方式と監理手法の分析	工事規模別発注方式選定方針
			実績	発注に至る効率的な設計手法の検討	発注に至る効率的な設計手法の検討	発注方式と監理手法の分析	概算数量設計発注方式の試行(2件)	
		令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☒ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）			（特記事項） 持続3203：PFASに関する動向を注視するため事業を見合せ	
関連指標		工事の平準化率（国土交通省）						
関連計画等		高槻市エコオフィスプラン、高槻市SMARTワークプラン						
備考		【持続3202】更新工事等の円滑な施行のため、継続事業や債務負担行為などを活用し、工事稼働件数を通年で平準化できるように努めます。 ※平準化率：（4～6月期の工事平均稼働件数）/（年度の工事平均稼働件数） 大阪府下平均0.49（R4年度実績）						

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続3 資源・資産の有効活用に関する方針						
施 策		持続3-3 公有財産の活用・処分の推進						
目標・効果		水道部が所管する遊休資産について、処分・活用方針を決定し、財源の確保と維持管理費の削減を図ります。						
取組内容・方向性		水道部所管の遊休資産の活用・処分について、部全体で検討を進めます。 (1)遊休資産の売却・活用に関する検討 遊休資産の売却・活用による財源の確保や、維持管理費の削減に向けた取組を検討します。 (2)財産管理検討会議の開催 部を横断した検討会議を定期的に開催し、遊休資産の処分・活用方法について他市事例や民間企業との連携等を調査・研究します。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど	事業3301	遊休資産の活用・処分の推進	進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			計画	活用・処分方法の検討	活用・処分方法の検討	関係者との調整	関係者との調整	活用又は処分の実施
	事業3302	水道部財産管理検討会議の開催	実績	元芥川受水場の売却に向けた検討を実施	元芥川受水場の売却に向け土壌調査等の各種調査を実施	元芥川受水場の売却に向けアスベスト調査及び隣地との境界確定・測量を実施	元芥川受水場の売却に向け関係課と調整し、分筆業務を実施	
			計画	検討会議の設置・開催	検討会議の開催	検討会議の開催	検討会議の開催	検討会議の開催
			実績	R3年7月及びR4年1月に会議を開催	検討会開催に代えて、随時部内で情報共有や検討を行った	検討会開催に代えて、随時部内で情報共有や検討を行った	検討会開催に代えて、随時部内で情報共有や検討を行った	
令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項)		
関連指標								
関連計画等		「高槻市みらいのための経営革新」に向けた改革方針、高槻市公共施設等総合管理計画						
備考		水道部所有の遊休資産（旧用途別）（令和5年度時点） 元岡本山配水池（5,658㎡）、元天神山第1配水池(6,970㎡)、元芥川受水場(4,165㎡)、元浄水場（3か所、599㎡）、元取水井（5か所、627㎡）、その他（5か所、620㎡）						

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道					
方 針		持続3 資源・資産の有効活用に関する方針								
施 策		持続3-4 自己水による給水量の一定確保								
目標・効果		自己水の給水量について、年間1,200万㎡を維持します。企業団水に比べ安価に製造できる自己水を一定量確保することで、人口減少に伴う総給水量の減少に対し収支改善が図られます。また、強靱の観点からも、複数の水源（企業団水・自己水）を確保することは、災害対策としても有効活用できるようになります。								
取組内容・方向性		本市特有の貴重な資源である自己水については、災害対策、経済的合理性の2つの観点から有効であることから、自己水維持に向けた取組を行います。使用水量が減少している昨今の状況を踏まえ、自己水を最大限活用できるよう、大冠系統の給水区域を拡張するなどして、年間1,200万㎡の給水量を維持するよう努めます。								
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		持続3401		進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				【KPI】	計画	1,200万㎡／年を維持	1,200万㎡／年を維持	1,200万㎡／年を維持	1,200万㎡／年を維持	1,200万㎡／年を維持
				自己水系総給水量	実績	1,200万㎡／年を計画どおり給水	1,200万㎡／年を計画どおり給水	1,200万㎡／年を計画どおり給水	1,200万㎡／年を計画どおり給水	
		持続3402		取水動向を踏まえた地下水の状況把握	計画	自然水位を経過観察	自然水位を経過観察	自然水位を経過観察	自然水位を経過観察	自然水位を経過観察
					実績	自然水位を測定し、経過観察	自然水位を測定し、経過観察	自然水位を測定し、経過観察	自然水位を測定し、経過観察	
		持続3403		大冠系統拡大計画に基づく系統切替	計画	拡大計画に基づく系統切替、計画見直し検討	拡大計画に基づく系統切替、計画見直し検討	拡大計画に基づく系統切替、計画見直し検討	拡大計画に基づく系統切替、計画見直し検討	—
					実績	系統拡大事業に係る地元説明を実施、最新の水量予測に基づく切替区域を検討	津之江町一丁目の一部163戸を切替	系統拡大事業に係る地元調整を実施	PFASの国の規制値等の検討動向を注視し切替事業を延期	
		持続3404		更なる自己水活用方法の検討	計画	—	—	—	—	—
					実績	—	—	—	—	
		令和6年度末時点での評価		☐ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☒ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項） 持続3403：有機フッ素化合物における国の規制値等の検討動向を注視し切替事業を中止		
関連指標		【KPI】自己水系総給水量：高槻市水道事業基本計画P78参照 1,200万㎡/年を確保することが目標								
関連計画等		大冠系統給水区域拡大計画（高槻市水道部）								
備考		【持続3403】給水量の減少傾向を鑑みながら、大冠浄水場の浄水処理が効率かつ安定的に継続できるような水量（平均37,000～38,000m ³ /日）を確保できるように系統拡大に努めます。								

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道				
方 針		持続4 施設・設備（持続）に関する方針							
施 策		持続4-1 施設の適切な更新							
目標・効果		供給基盤が強化され、安全な水道水がより安定して供給されるようになるとともに、施設の最適化により収支改善が図られます。							
取組内容・方向性		更新の重要度・優先順位・施設規模を考慮した上で、施設の適切な更新や維持管理の向上を図ります。 (1)適切な施設配置 将来の広域化を見据えた適正な施設配置について、関連する事業体と継続的に検討を進めていきます。 (2)大冠浄水場の更新 恵まれた自己水源を維持・活用していくために大冠浄水場の更新を段階的に進めます。 (3)水道施設の長寿命化 受水池や配水池などのコンクリート構造物は、点検から得られた施設情報を整理した上で、必要な部分修繕や改修工事を計画的に行い、施設の長寿命化を図っていきます。 (4)継続的な機械・電気・計装設備の更新 水質を測定する計装設備や、ポンプ設備、電気設備を計画的に更新していきます。							
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		持続4101 適切な施設配置の検討		進 捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				計画	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究
				実績	「あり方協議会」等を通じ、近隣事業体と協議中	「あり方協議会」等を通じ、近隣事業体と協議中	「あり方協議会」等を通じ、近隣事業体と協議中	摂津峡配水池、摂津峡中継ポンプ場の適正配置について研究	
		持続4102 大冠浄水場の段階的更新		計画	実証実験	実証実験	事業方式の検討 自家発電設備整備 場内配管等整備	契約手法の検討 自家発電設備整備 場内配管等整備	更新事業再開に向け検討会開催
				実績	実証実験を開始	実証実験を完了	事業方式の検討 自家発電設備の新設に着手 場内配管等の一部整備	自家発電設備の新設完了	
		持続4103 受水池・配水池の改修		計画	施設改修	施設改修	施設改修	施設改修	施設改修
				実績	大冠浄水場2号池改修	大冠浄水場2号池改修	大冠浄水場2号池改修完成	奈佐原受水場 受水池改修に着手	
		持続4104 老朽設備の更新		計画	老朽設備の更新	老朽設備の更新	老朽設備の更新	老朽設備の更新	老朽設備の更新
				実績	榎田浄水場高感度濁度計更新	奈佐原受水場 阿武山送水1・2号ポンプ 阿武野送水2号ポンプ 更新工事を発注、工場での製作に着手	奈佐原受水場 阿武山送水1・2号ポンプ 阿武野送水2号ポンプ更新 大冠浄水場取水ポンプ(4,6,18,19号)更新	大冠浄水場取水3号ポンプ更新 大冠浄水場配水4・5号ポンプ更新に着手	
		令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）					（特記事項）
関連指標									
関係計画等		第9次水道施設等整備事業計画(高槻市水道部)							
備考		【持続4103】主な送水施設、配水施設のうち配水池等の池状構造物は、全部で37。近年は、耐震補強などに合わせて改修実施してきました。今後は、毎年定期清掃・点検を実施した上で、計画的に改修します。 【持続4104】設備運転記録や点検記録を参考に、使用年数を考慮の上、老朽設備を計画的に更新します。							

観 点			持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針			持続4 施設・設備（持続）に関する方針						
施 策			持続4-2 老朽管の更新						
目標・効果			中長期的な管路更新計画を策定し、持続的かつ円滑に老朽管の更新を推進することで、さらに安定した水道の供給基盤の整備に取り組みます。						
取組内容・方向性			老朽管の更新にあたっては、鋳鉄管は時間経過保全、非鋳鉄管は状態監視保全に取り組みます。 (1)鋳鉄管の更新 独自に設定した更新基準年数を超過する管路と、基幹管路や重要給水施設管路の耐震化する管路を合わせて、約7km/年の管路を計画的に更新し、鋳鉄管路の更新率1.0％を維持します。 鋳鉄管のうち基本計画期間内に更新基準年数を超過する管路を老朽管と位置付け、10年間で効率的に更新していきます。 (2)非鋳鉄管の更新 適正に点検・修繕を行うとともに、漏水した箇所を分析し、漏水多発路線に限定し、更新工事を行います。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど			進捗	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			【K P I】	計画	更新率1.0％	更新率1.0％	更新率1.0％	更新率1.0％	更新率1.0％
				鋳鉄管路の更新率	実績	R3年度末 更新率0.97％	R4年度末 更新率1.09％	R5年度末 更新率0.99％	R6年度末 更新率1.04％
			非鋳鉄管路の漏水分析		計画	分析・評価・更新 箇所の選定	分析・評価・更新 箇所の選定	分析・評価・更新 箇所の選定	分析・評価・更新 箇所の選定
				実績	非鋳鉄管路の漏水多 発路線であった古曽 部町四丁目地区にお いて老朽管更新工事 にあわせて非鋳鉄管 路線を改良 (延長226m)	非鋳鉄管路の漏水多 発路線であった檜田 出灰地区において、 更新工事を実施 (延長557m)	非鋳鉄管路の漏水分 析の結果、漏水が多 発する管路がなかっ たことから更新工事 は未実施	非鋳鉄管路の漏水分 析の結果、漏水が多 発する管路がなかっ たことから更新工事 は未実施	
			老朽管の更新事業	計画	老朽管の更新	老朽管の更新	老朽管の更新	老朽管の更新	老朽管の更新
実績	更新延長5,506m (残存延長58,909m)	更新延長6,599m (残存延長52,310m)		更新延長5,764m (残存延長46,546m)	更新延長4,720m (残存延長41,826m)				
令和6年度末時点での評価			☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項）		
関連指標			【KPI】 鋳鉄管路の更新率：高槻市水道事業基本計画P78参照 1％を維持することが目標						
関連計画等			第9次水道施設等整備事業計画（高槻市水道部）、改良事業計画（高槻市水道部）、管路更新計画（高槻市水道部）						
備考			「鋳鉄管路の更新率」は、老朽管の更新に加えて基幹管路と重要給水施設管路の耐震化等の管路更新を含みます。 【持続4203】 令和3～12年度における老朽管（更新対象管）約64kmを10年間で更新します。						

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道				
方 針		持続4 施設・設備（持続）に関する方針							
施 策		持続4-3 情報資産の管理・活用と水道施設の適切な維持管理							
目標・効果		水道事業運営において必要なシステムを適切に活用し、業務効率の向上を図ります。							
取組内容・方向性		(1)情報資産の管理・活用 顧客情報、財務情報、施設情報などの情報資産を管理するシステムのセキュリティ強化と機能拡充を図りながら、情報資産を活用していきます。 (2)情報資産の活用による水道施設の適切な維持管理 各種システムの情報資産を活用し、水道施設を適切に維持管理していきます。また、水道施設の維持管理情報を活用し精緻なアセットマネジメントを実施し、水道事業基本計画のローリングに反映するよう努めます。							
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		進捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		持続4301	企業会計システム	計画	システム活用	システム活用	システム活用	ハード更新	システム活用
			実績	インボイス制度への対応を検討	インボイス制度に対応するためシステム改修を実施	R6年度のハード更新に向けた方針を検討	クライアント・サーバ方式からLGWANを活用したシステムへ移行		
		持続4302	料金システム	計画	ハード更新	システム活用	システム活用	システム活用	システム更新に着手
			実績	ハード更新を完了	インボイス制度に対応するためシステム改修を実施	システム更新に向けての検討を実施	システム更新に向けて他市等への調査を実施		
		持続4303	管路マッピングシステム	計画	システム活用	システム活用	システム活用	システム活用	システム活用
			実績	重要管路の対象路線の表示ツールを改良し更新工事計画時等に活用	管路の維持管理を効率的に行うため、仕切弁、水管橋などにおける属性項目を追加	K形ダクタイル管について耐震適合の適否を旗上げに表示	給水管を管種別に色分けで表示（鉛管は特に目立つように表示）		
		持続4304	施設台帳システム	計画	データ更新・システム活用	データ更新・システム活用	データ更新・システム活用	データ更新・システム活用	データ更新・システム活用
			実績	R3年度工事等のデータを更新し図面・資料等の確認に活用	R4年度工事等のデータを更新し図面・資料等の確認に活用	R5年度工事等のデータを更新し図面・資料等の確認に活用 運転監視日報を運用開始	R6年度工事等のデータを更新し図面・資料等の確認に活用		
令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				（特記事項）			
関連指標									
関連計画等		アセットマネジメント（高槻市水道部）、水安全計画（高槻市水道部）、高槻市ICT戦略、高槻市情報システム最適化・再構築計画の方針							
備考									

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続5 水道の供給維持のための投資に係る財源の確保に関する方針						
施 策		持続5-1 持続可能な水道のための財源の確保						
目標・効果		経常収支比率について、計画期間を通じて、100％以上を維持することで、事業運営に必要な財源を確保できるようになり、将来にわたり安心・安全な給水が維持できます。						
取組内容・方向性		(1) 料金水準の検討 水道料金の水準について、アセットマネジメントの取組を通して更新需要額を適切に算定し、中長期的な財政収支の見通しを作成した上で、水道事業の持続に必要な適正な料金水準について検討します。料金水準の検討については、3～5年のスパンで見直しを行います。 (2) 料金体系の検討 小口径（主に生活用水）、大口径（主に事業用水）の各料金体系について、市民生活や事業活動に及ぼす影響に配慮しつつ、関係部署と協議するとともに、審議会の意見も踏まえ見直しを検討します。 (3) お客さまへの説明責任 料金改定がお客さまに及ぼす影響について、お客さまの立場に応じた説明を行います。水道事業の経営状況と料金改定の必要性について、関係者に十分理解が得られるよう広報を行います。 (4) 地下水等を利用している専用水道への対策の検討 地下水等を利用している専用水道の設置者に対して、使用傾向の分析等を通じて、上水道の使用を促すための方策を検討します。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		進 捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		持続5101 適切な料金水準・体系についての検討	計画	適切な料金水準・体系について検討	適切な料金水準・体系について検討	適切な料金水準・体系について検討	適切な料金水準・体系について検討	適切な料金水準・体系について検討
			実績	水道事業の課題を部内横断的に検討・対応すべく経営戦略会議を新設	経営戦略会議において新型コロナウイルスや電力価格高騰等の社会情勢を踏まえた財政収支シミュレーションの見直しを実施	水道事業審議会に「将来にわたり安定した経営を行うための方策」について諮問を行い、現行の水道料金の抱える課題等について審議	水道事業審議会からの答申を踏まえた、料金改定案（体系の見直し、水準の引き上げ）を市議会に上程、可決	
		持続5102 経営面に関する広報	計画	広報内容・手法の検討・実施	広報内容・手法の検討・実施	広報内容・手法の検討・実施	広報内容・手法の検討・実施	広報内容・手法の検討・実施
			実績	HP及び広報誌にて予算・決算、基本計画・実施計画、水道事業年報、PI、経営比較分析表などの広報を実施	・HP及び広報誌にて左記内容の広報を実施 ・水道週間時に市庁舎展示ブースにて水道料金に関する広報を実施	・会計のしくみと決算状況をわかりやすく解説したHPを新設 ・審議会での審議内容をわかりやすくHPに掲載 ・左記記載の広報を継続的に実施	・市主催イベントや商業施設でのブースイベントで水道事業経営に関する広報を実施 ・水道事業経営に関するチラシの全戸配布を実施(広報誌7月号・12月号配布時)	
		持続5103 大口需要者のニーズ把握と地下水等専用水道使用者への対策検討	計画	現状の使用状況の分析	現状の使用状況の分析	ニーズ調査結果分析	対応方針の決定	個別の給水相談を通じたリスクコミュニケーションを実施
			実績	ニーズ調査に向け、現状の使用状況の分析に着手	個社別分析・業種別分析の実施	個社別分析・業種別分析結果の整理	個社別分析・業種別分析結果の整理	
		持続5104 【KPI】 経常収支比率	計画	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上
			実績	117.7%	115.1%	115.1%	111.4%	
		令和6年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）			(特記事項)	
関連指標		【KPI】経常収支比率（PI：C102）：高槻市水道事業基本計画P77参照 100%以上を維持することが目標						
関連計画等		高槻市産業振興ビジョン						
備考								

観 点		持続	将 来 像		いつまでも信頼される水道			
方 針		持続5 水道の供給維持のための投資に係る財源の確保に関する方針						
施 策		持続5-2 企業債等の活用に関する調査・取組						
目 標 ・ 効 果		企業債・運転資金・現預金・補填財源等の適切な残高設定及び実現に向けた取組により、健全な財務体質を維持します。客観的に財務状況を分析し、事業運営に必要な資金調達を図ることで、施設の更新・耐震化等を適切に推進するとともに、支払利息の軽減など、経営の安定化に取り組めます。						
取組内容・方向性		(1)企業債の活用 今後水道施設の更新・耐震化に継続的に取り組んでいくためには、水道料金収入のほか、様々な資金調達を検討する必要があります。企業債は水道料金収入に次ぐ主な財源であり、用いることで水道料金の急激な値上げを抑制することができますが、将来世代に負担を残すこととなりますので、活用について慎重に検討しなければなりません。企業債を活用する対象事業については、水道事業の資金の流れを平準化することに寄与する大規模な施設更新等に限定し、返済までの収支見通しなども考慮したうえで、活用を検討します。 (2)その他の財源の活用 水道事業を対象とした国の補助金の活用や、未利用の水道用地の有効活用について検討を進めます。						
主 な 事 業 、 指 標 の 進 捗 な ど		進 捗		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		持続5201	計画	必要資金残高の検討	検討・基準設定	借入に向けた検討	借入に向けた検討	借入に向けた検討
			実績	包括外部監査にて必要資金残高15億円は妥当との見解が示された。 《参考》 R3年度末資金残高 計画:41.5億円 実績:61.5億円	・R5～6年度で大冠浄水場更新工事見合い分の企業債借入基準設定に向けた整理、調査 ・あらゆる企業債メニューの検討	水道部庁舎耐震改修と併せて行ったLED改修部分について公営企業債(脱炭素化事業、7,900千円)を活用	R7年度以降の借入について収支状況を勘案し、年5億2千万円を上限として設定	
		持続5202	計画	調査研究活用検討	調査研究活用検討	調査研究活用検討	調査研究活用検討	調査研究活用検討
実績	水道部庁舎耐震化実施設計(R3～4年度継続事業)に係る社会资本整備総合交付金の活用		水道部庁舎耐震化実施設計(R3～4年度継続事業)に係る社会资本整備総合交付金の活用	水道部庁舎耐震化工事(R5～6年度継続事業)に係る社会资本整備総合交付金の活用	重要給水施設管路の耐震化事業に係る防災・安全交付金の活申請・内示			
令和 6 年度末時点での評価		☒ A：計画どおりに進んだ（達成した） ☐ B：おおむね順調に進んだ ☐ C：遅れている（達成できていない）				(特記事項)		
関連指標								
関連計画等								
備考		遊休資産の活用は持続3-3に記載						